

2024年9月10日

本年第30回を迎えた「2024年度ヤング・ポートフォリオ」を 2024年10月19日(土)～12月8日(日)まで開催

北欧、ウクライナ、アジアから日本まで、2024年度収蔵作品104点を一堂に展示
コロナ禍以降のニューノーマルや社会問題を見つめ直した作品が多数集結

清里フォトアートミュージアム(K・MoPA/ケイモパ、山梨県北杜市)は、10月19日(土)から12月8日(日)まで「2024年度ヤング・ポートフォリオ」展を開催いたします。

ヤング・ポートフォリオ(YP)とは、K・MoPAが開館以来毎年開催している、世界の35歳までの青年の作品を公募・購入・展示する文化活動です。本展では、世界46カ国、459人、9,229点の応募作品から厳選された、22人による104点を展示します。

K・MoPAに結集した若手写真家の情熱を、本展で感じていただければ幸いです。

■ 開催概要

展覧会名：2024年度ヤング・ポートフォリオ

会 期：2024年10月19日(土)～12月8日(日)

会 場：清里フォトアートミュージアム

主 催：清里フォトアートミュージアム委員会

特別協賛：真如苑(社会貢献基金)

開館時間：10:00～17:00(入館は16:30まで)

休 館 日：毎週火曜日

入 館 料：一般800円(600円) 本展に限り35歳以下無料
()内は20名様以上の団体料金

交通のご案内

車にて：中央自動車道須玉I.C.または長坂I.C.より車で約20分

J R：中央本線小淵沢駅にて小海線乗り換え 清里駅下車、車で約10分



セルゲイ・メルニチenko(戦争の刺青)シリーズより
《ミコライウの爆撃されたアパートのプロジェクションとアントン#4》
2023
©Sergey Melnitchenko

■ 2024年度ヤング・ポートフォリオ(第30回) データ

選考委員：今道子、レスリー・キー(一次選考のみ)、百瀬俊哉、瀬戸正人(副館長)、
細江英公(館長、特別選考委員)

作品募集期間：2024年1月10日～2月20日

応募者数：459人(世界46カ国より) 応募点数：9,229点

購入者数：22人(国内9人・海外13人/12カ国)

〈日本/中国/台湾/シンガポール/インド/フィンランド/ウクライナ/ドイツ/トルコ/クロアチア/オランダ/フランス〉

購入点数：104点(全作品を展示いたします)

■ 4人の選考委員の初期作品を展示

今道子、百瀬俊哉、瀬戸正人(副館長)、細江英公(館長)の初期作品、すなわち
“選考委員のヤング・ポートフォリオ”作品(全21点)を同時に展示いたします。



選考風景(左から)百瀬俊哉氏、今道子氏、瀬戸正人(副館長)

第30回「2024年度ヤング・ポートフォリオ」の見どころ

第30回という節目を迎えた YP2024 では、コロナ禍以降のニューノーマルの世界で、自国の文化や社会問題を見つめ直した作品、身近な物事の価値を再認識した作品、国家間の移動が再開され他国での出会いへの喜び、そして戦場からの痛切な思いが込められた作品と、どれも今ここにある「生」と向き合う表現が多く見られました。瀬戸選考委員の「全て皆さんの“初期作品”になるわけですね。初々しさもあり、荒々しさもあり、不完全なところが実に魅力的だといつも思っています。」という言葉にあるように、若き眼差しの持つ共振力をご覧くださいますと幸いです。

セルゲイ・メルニチェンコ (ウクライナ、1991)

作家とその友人家族の故郷、ウクライナ南部の州都ミコライウはロシア軍のミサイル攻撃を受け、多くの人と建物が破壊されました。《戦争の刺青》では、変わり果てた故郷の風景をプロジェクターで友人たちの身体に投影して撮影されました。故郷の写真を選ぶ行為は「まるで自分たちを一番苦しめる写真や記憶を選ぶようなもの」であり、苦痛に満ちた記憶が「刺青」のように刻まれたポートレートです。映像と写真を組み合わせる手法が非常に効果的で、戦地の情報だけでは想像し難い、被害を受けている人々の苦しみと痛みがダイレクトに伝わる写真です。

セルゲイ・メルニチェンコ《戦争の刺青》シリーズより
《ミコライウの爆撃されたアパートのプロジェクションとアントン #4》2023
©Sergey Melnitchenko



タハ・アフマド (インド、1994)

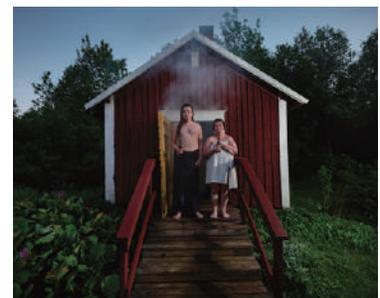
《パドラの白鳥の歌》はインドの都市ラクナウでかつて栄えた伝統的な刺繍ムカイシュ・パドラの歴史をリサーチし、わずかに残る職人家族を記録した作品です。インドの複雑な社会構造によって周縁に追いやられたコミュニティを、ドキュメンタリーとして状況を伝えるだけでなく、静謐で美しい画面構成で鑑賞者を惹き寄せ、被写体へ関心を引き起こす、写真の力を感じられる作品です。

タハ・アフマド《パドラの白鳥の歌》2016
©Taha Ahmad

カスパー・ダールカル (フィンランド、1991)

《母と息子》はその名の通り作家自身と母親のポートレート写真です。美術史を振り返ると老いゆく母親と成長した息子を題材とすることは珍しく、ダールカルの鋭い着眼点が発揮されています。この二人には父親の死という共通のトラウマがあり、その経験と向き合う過程で変化していった親子関係が本作の起点となりました。しかし単に親子関係を私的に表すだけでなく、撮影地やライティング、絵画的な構図など、徹底した演出で物語性を高め、“人間の自然な老い”という誰もが直面するテーマを表現することも試んでいます。

カスパー・ダールカル《サウナ (ババに捧ぐ)、母と息子》2022年
©Kasper Dalkarl



黄愛《KABRALA》2024
©Huang Ai

黄愛 (中国、2001)

《KABRALA》はカメラやレンズを使わず、暗室作業のみによって制作された作品です。自身の手や指、髪を用いて、光や現像液による化学反応を操作しながらモノクローム印画紙にさまざまな“顔”を描きます。黄は子供の頃に欠伸発作という突然意識がなくなる症状に悩まされ、周囲から切り離される感覚が本作に大きく影響しています。幼い頃から画家になることを考えていた作家が、写真材料と出会ったことで生まれた作品は、独自性と唯一性に溢れ、写真表現の奥深さを見ることができます。

カイヤ&ブランク (トルコ、ドイツ、1990)

Işık Kaya と Thomas Georg Blank は 2019 年よりアーティストユニットとして活動しています。《Second Nature (第二の自然)》は、自然に擬態させるデザインの電波塔を撮影したシリーズです。携帯電話の普及とともに電波塔が世界各地に多数設置され、1992年に松の木を模したデザインが設置されると、それに倣った電波塔が増加し景観は一変しました。作家は、この奇妙な造形物には、テクノロジーと自然、デジタルと物理的な世界との関係性が象徴されていると言います。本作は、現実とフィクションの境界を曖昧にさせ、鑑賞者へ様々な疑問を投げかけてくるでしょう。

カイヤ & ブランク《第二の自然 #89》2020
©Kaya & Blank



YP2024
作品購入作家

1. タハ・アフマド (インド、1994)
2. アマノミツキ (日本、1989)
3. ウェージャン・チャン (シンガポール、1991)
4. オレクシー・チョイストーツィン (ウクライナ、2000)★
5. カスパー・ダールカル (フィンランド、1991)
6. バスティアン・デシャン (フランス、1990)
7. トマ・ヘルジャ (オランダ、2003)
8. 黄愛 (中国、2001)
9. 川口翼 (日本、1999)★
10. カイヤ & ブランク (トルコ、ドイツ、1990)
11. クガハルミ (日本、1995)★
12. キャン綾菜 (日本、1992)
13. 李若琦/リ・ワカキ (中国、1996)
14. 李也曾一/リー・イェジェンイー (中国、1992)
15. グロリア・リズデ (クロアチア、1991)
16. 丸山達也 (日本、1998)
17. セルゲイ・メルニチェンコ (ウクライナ、1991)
18. 森 凌我 (日本、2001)
19. 西山 廉 (日本、1995)
20. 大島宗久 (日本、1990)
21. 富樫達也 (日本、1989)★
22. 吟茜 (台湾、1989)

★=過去のヤング・ポートフォリオでも作品を収蔵した作家

広報用作品



セルゲイ・メルニチェンコ
《戦争の刺青》シリーズより
《ミコライウの爆撃されたアパートのプロジェクトとアントン #4》
2023
©Sergey Melnitchenko



タハ・アフマド
《パドラの白鳥の歌》2016
©Taha Ahmad



カスパー・ダールカル
《サウナ (ひびきに捧ぐ)、母と息子》2022
©Kasper Dalkarl



黄愛
《KABRALA》2024
©Huang Ai



カイヤ & ブランク
《第二の自然 #89》2020
©Kaya & Blank



川口翼
《Breathless》2022
©Tsubasa Kawaguchi



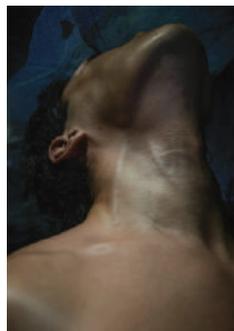
吟茜
《台湾夢・遊》より《魚屋》2024
©Uta Akane



キャン綾菜
《裸足でなぞる》2021
©Ayana Kyan



グロリア・リズデ
《無題 #4、F20.5》2021
©Glorija Lizde



森 凌我
《獣の影 #4》2023
©Ryoga Mori



バスティアン・デシャン
《遠くへ行きたい #07》2019
©Bastien Deschamps



李 也曾一/リー・イェジェンイー
《ゼイラン》2023
©Li Ye Zeng Yi

- 選考会後の選考委員による対談は、当館ホームページ内「動画のページ」をご覧ください (約 52 分)

<https://www.kmopa.com/category/video/>

- 展示内容の詳細は、当館ホームページ内「今後の展示」をご覧ください。

<https://www.kmopa.com/category/future/>

選考委員略歴

- 今道子 (日本、1955-)

神奈川県に生まれる。創形美術学校版画科卒業後、東京写真専門学校 (現・東京ビジュアルアーツ・アカデミー) にて写真を学ぶ。市場に並ぶ魚や野菜などの食材、靴や帽子といった日常的なモノを組み合わせたオブジェを創り、自然光で撮影してプリントする独自の手法を用いる。その精緻な構成と詩的喚起力に富んだモノクロームの世界は初の写真集『EAT』(1987) 以来一貫しており、第 16 回木村伊兵衛写真賞受賞をはじめ、国内外で高い評価を得ている。2022 年神奈川県立近代美術館鎌倉別館にて「フィリアー今道子」展が開催された。



【コメント】

「最初の頃は、(自身の) 展覧会に目が行っていて、美術館に收藏されることに、あまり関心がなかったのですが、作品が手元を離れ、評価され、きちんと管理され、保存されることは大事なことで感じています。若いころの作品はエネルギーや新鮮さがあって、今になってはできないことなので貴重です。」

- 百瀬俊哉 (日本、1968-)

東京都生まれ。大型カメラで捉える世界の都市像を“からっぽの風景”と呼び、都市の根底にひっそりと存在する息づかい、「裸の都市」を映像化し、新しい都市論を展開する。1994 年、ニューヨークを撮影した〈SILENT CITY〉にて初個展。続いて〈AMERICAN SOUTHWEST〉(1996)、〈ハイパーリアル・トーキョー〉(1997)、〈グランド上海〉(1999) を次々と発表。2002 年、第 21 回土門拳賞受賞。現在、九州産業大学芸術学部写真学科教授。第一回の 1995 年度 YP をはじめ 4 回にわたり作品を收藏している。



【コメント】

「約 30 年近く前にヤング・ポートフォリオへ応募をしたわけですが、その時は正直、美術館に收藏されることの重さというのをここまで深くは考えていなかったと思います。年々時が経って、歳を重ねていくうちに、すごく自分の中で重く受け止めるようになって、そこにだいたい救われてきたなという感じがしています。いろいろな公募がありますが、YP は特殊で、選考して分かったのですが、かなり自分の世界というものを持ってぶつけてくる必要があるなと思いましたので、それに向けて作品制作を楽しんでもらいたいというのが最も強く感じた点です。」

- 瀬戸正人 (タイ / 日本、1953-)

タイ国ウドーンタニ市に生まれ、後に父の故郷、福島県に移り住む。東京写真専門学校 (現・東京ビジュアルアーツ・アカデミー) に在学中に森山大道氏に大きな影響を受ける。深瀬昌久氏の助手を務めたのち独立。1987 年、自らの発表の場としてギャラリー「PLACE M」を開設し、現在も運営中。第 21 回木村伊兵衛写真賞受賞。2021 年 4 月清里フォトアートミュージアム副館長に就任。



- 細江英公 (日本、1933-)

「薔薇刑」(1963) や「鎌鼬」(1968) など、特異な被写体との関係性から紡ぎ出された物語性の高い作品により戦後写真の転換期における中心的な存在となる。2003 年、英国王立写真協会より創立 150 周年記念特別勲章を受章したほか、2010 年、文化功労者。2017 年、写真家として初めて生前に旭日重光章を受章した。1995 年より当館初代館長。



©Jean-Baptiste Huynh

関連印刷物&YP データベース

①YP2024 ポスターパンフレット

各作家の作品数点、選考委員による対談や作品へのコメントを掲載。来館者アンケートにお答えいただいた方には無料で配布いたします。

② YP データベースには、過去 30 年にわたる世界の若手写真家による収蔵作品画像のほか、作家略歴、アーティスト・ステートメントを掲載しています。作家名、収蔵年、国籍などで検索することができます。様々な調査・研究の対象としてもご利用いただければ幸いです。▶▶▶ www.kmopa-yp.com

YP2024 選考委員によるポートフォリオ・レビュー 参加者募集

開催日：11月4日（月・振休）

詳しくは当館 WEB サイトへ

お問い合わせ

● 本展の詳細につきましては学芸員・山地裕子 yamaji@kmopa.com
掲載用画像データにつきましては、info@kmopa.com までご連絡ください。

Tel: 0551-48-5599

ホームページ <https://www.kmopa.com>

YP 募集専用ページ https://www.kmopa.com/yp_entry/

X(旧ツイッター) <https://www.twitter.com/kmopa>

フェイスブック <https://www.facebook.com/kmopa>

インスタグラム <https://www.instagram.com/kmopa2024/>

〒407-0301 山梨県北杜市高根町清里 3545-1222 清里フォトアートミュージアム

Tel: 0551-48-5599（代表） Fax: 0551-48-5445 Email: info@kmopa.com